やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌　　名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	39 / 2018 / 58　(再編集版)
タイトル	ルリタテハの幼虫
著　者　名	五十嵐　正俊

自然を見つめる　やぶなべ会（青森）

ルリタテハの幼虫

第3代　五十嵐　正俊

9月上旬、既に花が終わって花壇の隅に追いやられていた鉢植えの「ユリ」の葉に目をやったら見るからに痛そうな棘だらけの幼虫が目に入った。咄嗟に「ルリタテハ」の幼虫であろうと思い確認のためにパソコンで検索した。間違いなく「ルリタテハ」の終齢幼虫である。

やがて、蛹になるだろうが、一般に踊化の場所を求めて移動する場合が多いので容器に収容しての観察開始である。以下室内観察の画像である。

摂食中の幼虫は殆ど移動しないが、踊化の場所を求めてやや活発に移動する。
全部で5頭確認していた幼虫だったが、2頭の姿が見えなくなったので残りの3頭を容器に収容しての室内観察にしたのであった。「ルリタテハ」は成虫で休眠・越冬して翌春現れて産卵することが知られている。

幼虫はやがて活発に容器内を動き回り、少しばかりの糸を吐き出してぶら下がるように前踊となり踊化した。容器に収容した3頭は全て蛹化したが、蛹の体色は最初褐色であったが、羽化前には濃褐色になり、やや2日後には羽化した。1頭は寄生されているらしく羽化していない。羽化した2頭は来春また産卵に訪れることを期待して放蝶した。

放蝶された個体は2頭とも比較的近い場所で一旦停止したが、下向きに停止する習性があるらしい。また、窓ガラスにも停まることが可能であった。

写真1　終齢幼虫

写真2　前蛹

写真3　蛹

写真4　羽化して吸蜜中の成虫